

<b>授業科目</b> 社会福祉学特論Ⅱ (精神保健福祉特論・福祉心理学特論)	<b>科目概要・形式</b> 4単位 60時間	<b>配当年次</b> 2年 前期
<b>科目責任者</b>	坂下智恵	
<b>担当者</b>	大山博史、入江良平(本学名誉教授)、坂下智恵、石田賢哉	
<b>1. 科目のねらい・目標</b> <p>まず、精神保健福祉特論では、精神保健福祉に関する諸問題のリスク、心理的機序、介入等について、吟味するとともにその課題を明らかにし、研究方法を検討する。エビデンス・ベースド・プラクティスや質的解釈の手法を用いて、関連文献や研究計画に対する考察を行う。</p> <p>福祉心理学特論では、以下の立場のもと議論を深める。すなわち、福祉が対象とする現実の人間の生活は一時的でユニークであり、一般理論に包摂されない。その一回性の中心にあるのが心であり、これは普遍的理論に包摂できない。人間をこのユニークさにおいて捉え、対処しようとしてきた心理療法・カウンセリングの理解をねらいとし、その現実的で生きた観念の形成を目標とする。</p>		
<b>2. 授業計画・内容</b> <p>以下のようなテーマについての講義および聴講生のディスカッションによって進める。</p> <p>第1～3回 精神保健福祉の課題について          第4～6回 精神障害者の特性について          第7～9回 精神障害者を取り巻く環境について          第10～12回 根拠に基づく臨床(1)          第13～15回 根拠に基づく臨床(2)          第16～18回 精神障害者リハビリテーションの課題と展望          第19回 福祉心理学序論：「心の問題」をどう捉え、そこにどう対処するか          第20～21回 実践的・具体的営みとしての心理療法あるいはカウンセリングについて          第22～24回 近代的心理療法・カウンセリングの誕生と展開：前近代的な原始治療が近代の心理療法・カウンセリングへと変容した経緯、特に日本におけるその発展について          第25～27回 近代の世界像と心理療法ないしカウンセリングの実際：その営みが、自我の支配の外にも関わる可能性を取り上げ、ここに接近する手がかりとしてのユングの理論について          第28～30回 全体のまとめ：個人の生活そのものと心理療法・カウンセリングとの実際的な関わり          なお、上記計画内容は受講生のニーズに応じて、適宜、変更することがある。</p>		
<b>3. 教科書、参考書</b> <p>精神保健福祉特論については、次の参考書を推薦する。</p> <p>訳者 木原雅子他：「医学的研究のデザイン 第4版」、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2014年、ISBN 978-4-89592-783-3</p> <p>福祉心理学特論については、教科書は用いず、適宜、参考文献を紹介、あるいは資料を配布する。</p>		
<b>4. 成績評価方法</b> 出席とディスカッションへの参加による。		
<b>5. 受講要件</b> 社会福祉士または精神保健福祉士の国家資格を有する者、もしくは、これに準ずる者。		
<b>6. 社会人学生に対する配慮</b>		
<b>7. その他</b>		